

4. 総 評

4.1 自己点検・評価活動と内部質保証システムの構築

本学は、大学基準協会による認証評価の準備作業を行う中で、従来からの自己点検・評価活動の体制、運用についての再検討に着手し、また 2014 年度認証評価において、努力課題として『「全学自己点検・評価委員会」および「部局等自己点検・評価委員会」の活動の実態が無く、実質的に機能しているとはいえない』と指摘されたことを受けて、新たな自己点検・評価の体制、運用方法等の整備を進め、2015 年度から自己点検・評価のための内部質保証システムの運用を開始した。これに伴って「青山学院大学自己点検・評価規則」（2016 年 3 月 24 日全部改正）及び「青山学院大学自己点検・評価に係る委員会規則」（2016 年 3 月 24 日全部改正）を整備した。また、2015 年度から自己点検・評価結果、および改善活動・結果に関する報告書を作成・公表することとなった。

4.2 2015 年度内部質保証システムの運用

2015 年度より運用を開始した新たな内部質保証システムは、現場の各部局の視点から自己点検・評価活動をおこなうために、既存の教員組織、事務組織に即した担当委員会を設置し、基準 1～10 についてのチェックをおこなう体制である。また、複数の担当委員会にまたがる基準 6、7 については、それぞれ部会を設けて、部局横断的、キャンパス横断的な視野に立って自己点検・評価をおこなうこととした。このシステムの特徴は、現場の業務、活動に即した組織形態を採用したところであり、従来の規則に基づく委員会組織が現場の組織形態とは異なったものが多く、具体的な活動が難しかったことへの反省にもとづいている。また、新たな内部質保証システムの運用に伴い「内部質保証に関する各種方針」を定め、具体的な方針にもとづく自己点検・評価の実施を目指した。これに並行して、次年度に向けて、チェックリストの修正等を検討し、改善する作業も実施した。さらに、内部質保証システムに関するアクティブラーニング形式の SD 研修会をおこない、職員の理解を深めた（2016 年 1 月 14、15 日開催）。

4.3 2015 年度自己点検・評価および改善活動の結果について

2015 年度の自己点検・評価活動にもとづいて、各部局から挙げられた多くの課題の中から全学自己点検・評価委員会は、全学的に取り組むべき優先課題を選定した。これらの優先課題は、基準別課題と基準横断的課題に分類され、さらに対応時期によって、(1) 2015 年度に優先課題として取り組みを実施したもの、(2) 2015 年度に課題として選定し、次年度以降に優先課題として取り組みを開始するもの、(3) 2015 年度末時点の状況にもとづいて課題として選定し、次年度以降に優先課題として取り組みを開始する予定のものに分類された。その内訳は、基準別課題 (1) 20 件、同 (2) 3 件、同 (3) 1 件、基準横断的課題 (1) 4 件、同 (2) 1 件、同 (3) 0 件の合計 5 件であった。第 2 回全学自己点検・評価委員会（2015 年 7 月 25 日開催）において選定された優先課題は、各実行部局への依

頼がなされ、その後、第6回同委員会（2016年3月28日開催）に取り組みの結果が報告された。取り組みの達成度自己評価は、基準別課題と基準横断的課題を併せて、「目標達成」8件（優先課題選定時に対応済みの課題も含む）、「達成見込み」8件、「達成見込みなし」7件、「対応中」1件であった。なお、複数部局に該当する優先課題は、全部局が達成目標だった場合、全体の評価として「目標達成」とした。これらのうち、「達成見込みなし」、については、その取り扱いについて次年度の全学自己点検・評価委員会において検討することとした。

4.4 現状と課題

2015年度は、本学の自己点検・評価活動にとって、新たなスタートの年度となり、また、新たに設定された内部質保証システムがはじめて運用され、自己点検・評価活動を支えていくことになった。今後とも自己点検・評価活動をより充実させるように、内部質保証システムを運用し、改善していく必要がある。

自己点検・評価活動の充実という面からは、実際にそれを担う現場の教職員が実際の教育活動、業務等の中から新たな具体的な方針、課題を発見していくことが望まれる。その意味で、既述のSD研修会のような場は重要であり、有効であろう。

さらに、各部局等の自己点検・評価活動を踏まえて、大学全体の観点からの自己点検・評価が必要となる。そのための組織、検証、手続き等についてはさらなる検討が必要であり、その際、大学の基本方針や認証機関以外の外部評価との関連性も考慮すべきである。

最後に、外部環境とのかかわりでは、本学でも3ポリシーの改訂作業を進めており、同時に、大学基準協会の第3期認証評価の内容が明らかになった。そこでは、「内部質保証」が基準2に位置づけられ、「大学全体として内部質保証の推進に責任を負う組織を整備することとされている。大学全体の観点から教学マネジメント全般を自己点検・評価する仕組みが必要となる。これらの内容を踏まえつつ、本学の特色にもとづいた教育研究のさらなる発展に貢献するために、内部質保証の実質化に取り組んでいかなければならない。

以上

全学自己点検・評価委員会
委員長 田中 正郎